續藤栗毛八編 上

へ13
3124
15

特
へ13
3124
15

續膝栗毛八編序

萬屋商店
貸本文庫

諏訪の湖波たゞのみ。風絶の嶺拔を
ふるゝ次。法華の旅人の命をかゝ舟。
菅このつゝと泳ぎ出て昔を携も今を
つゝ孫子難形くの旅人、樵の業をひくゝ
ゆゝ。熊の猛くの口てるよ作ふ。書曾はの

紙しの中井ゆくの若き麦うゑ傳ふる。福
豈の奇雁凡しの行るを傳に泳生の
茶屋の歓盛。舟を繋よそそ常しき。
金儲の孟仮ど紀。能摩川の茶漬丹。
腹をさやしう。出のこさはぐの山し傳
頭ら。筋の恥をかな拵表新のそれ。

茂書の國江ゆ一久。弔一せ乎街
道ま枝をしぶて。洗ほ馬の驛ぐ茂必る
丹ゝ表み。松出ふ松 糸魚川街ぞまま
出。栗尾 杜尾宮洋ちぐる。霊場そく。
稲ま何山ま宮そうし。貫そそ浜山川の桃
名。土人のゝ人糸。吉雅なるま出のしま事。

仮書しるす。袖珍蒙求帰至ると。
その仮名よみ編の趣向おもしろし。何人
熟考とはく英亭志の作

文化丙子春　十返舎一九識

(直)

浪華曽路
嘉光寺道　續膝栗毛八編　上巻

東都　十返舎一九編

東海道とい〻び山島く連る重渓幽谷流れて毎よ森
狼ちど。淋しの所よ遠ちこ。ちるく〻ちある筋の男も
むかけくて。さるがら異国のやうよ剪ひ重て。
ら音の狭都し山も。今八月の名所となうて蕉山ちの
森よ野猪もぞそまで。拐東屋月の馬も助々を動ふく
猿くの鹿も罠。ちち女の化粧ちも。優よ鶯しく。浪華

の縁人も。喜海寺(きかいじ)丹彩(たんさい)を施(ほどこ)し。されば若(もし)ぶらうもあるべし。
情(なさけ)敷(しき)と。世(よ)に永(ながく)賢(けん)のこゝあり。あぢうけさ美乃
おもひ出(だす)。事(ことは)なやうまおもひ。でゝ。鶏(にわとり)の時(とき)を惜(おしむ)
澤山(たくさん)郡(ぐん)。江戸(えど)に藩(はん)を八(はち)ぶ〳〵馬(うま)迫(ばく)海(かい)の秋
和書(わしょ)の人(ひと)より借(かり)て。語(ご)の金(きん)より元(げん)を。
いさゝか本(ほん)の駅(えき)。おもひ出(だす)。
くぐよりうりうりゆくゝ。賣(うり)
加(か)小田(おだ)原(はら)の名(なぞ)。一(いち)コレハ 桐(きり)妙(たえ)小田原の名物(めいぶつ)。
古(ふる)ハ。おぐらうませぬるゝ。抑(そもそも)拙(せつ)者(しゃ)小田(おだ)原(はら)の

の義(ぎ)ハ。お江戸(えど)を。別(べつ)て。お至(いたる)上(じょう)方(がた)。お妙(たえ)小田(おだ)原(はら)の。
ふおきまして。お出(だす)なべひぐらの方(かた)。おぐらうをバ右
のかゝ。表(ひょう)紙(し)看板(かんばん)。桐(きり)。金(きん)の紋(もん)。
むらゝ虎(とら)屋(や)。左(さ)衛(えい)門(もん)。唯(ただ)今(いま)ハ名(なを)。以(もって)。
虎(とら)屋(や)。左(さ)衛(えい)門(もん)。武(ぶ)士(し)。名(なを)。
うれるの義(ぎ)ハ。一(いち)両(りょう)。百(ひゃく)。
さまをまして。お出(だす)けゝ。一(いち)重(じゅう)。
なるまでも。神(かみ)の拵(こしらえ)合(あわせ)。化(ばけ)生(しょう)の縁(えん)。

奥白川
白鶴房

おもてへ。一粒づゝお拵幕中まで。江戸表よりおきまして。
出茶お茶茶なぞ。出て。相よ茶きんりいの紋と賀まし
て。そのうへのおぶくの。所借のうんりうんまくうんを門
ちやぐ〳〵。書紀〳〵まして。甘茶余甘茶。さてう出せう汁粉
まぜこう。鍋炭かうろくのかけ。そくねるどふて。仲合仕組。
貴公まをう。う仙ろうしう使ひまして。拵ちうんろう乃
茶八。一粒をくちよへまをれがくるくまへる所ぐ。お出ぐ
茶ぐんむ〳〵ろ高年寿。はとうてはとあげつゝざんせう。

ちてんこでめの粒生茶。粒も上ぶを勝子も赤を糸。粒茶をへ
子ぶをへ。かげをかぐらぐさかげを手結。ぶをうの茶茶をへかうちや
がを。ぶちの茶茶をもかゝちもぐをやと。かをうるくちぐまつるかく
西の門をゝのくちのまつうぐ茶ちゝくゝぐ門ぶへちやて。
こんのんでぶぐふのく門ゝくあぐ門てぐろうぐまを門ゝくを
の人。痔癪でのくちぐふぐうのろうへ。ほんまぐ門てぶまるる。
ぶの茶まで。右へまつうを毛こんをんぶの人門ゝくをやてあを人。
今ま西孔ぐ吹ゝう。右のかうへまるぐろう門ちんこの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千里の糸へひぐく切紙

かゝて爰を折きびす。なをくゝも法馬の宿小法くゝ。ぐるぐるのちや盆の
さゝもがらぶふ。俵んでお出なさんゝ。蕎麦のお巻うけがおぐろう
まをとは汁の底のもぐぎろうます。ぬるぐさ。ぐるやぐぞふ
の門てくをさり芝。アノ芝雲をかゝぐ。さたの
去やゝまでいゝでのせろ。むゝ井まで。二百宝さり芝。
あゝゝ二王まもあるぞゝア。百年でやゝ絵くゝ。ぞく
ゴリヤ指紙ゝ。まゝくまゝちやアまり。指紙ゝちやアまり。人ゝ。

ゝゝゴリヤさんぐさ的ゝぐ。きさを多へ津陸法師ゝ。やゝ多大
田。その相撲ゝちゝハ。掾の下を掃除ようよりふ小おとゝ。
あんまり弱合祝ゝゝ。ゴリヤ山加雷屋アのゝを絵くゝ人。
ゝゝのゝ。せんがちゝんゝ。ゝゝ。是話をんてかつぎまを。
ゝをまでやアかゝゝきゝ。指があくゝ。月サぐぶん。指へあきゝ
まゝゝん。をまのゝ。ゝをくゝまさり芝。ゝのおゝぐのゝ。下話の
歯がゝゝぐゝ。をのさんへ。強ぐぶん法けて。をんゝゝよかゝ
ぐゝゝ。コレ強ゝと歯のゝをゝぐぶん。あゝゝとのゝ

御やまみ石
奥二本松
森積亭
深道

げさ　ち
ちいさの歯へむぐ　ろ　ろ　ぐ　ん　ん　ん

寺入よく〳〵芝屋の主ちやうこ所ごそつかな所ヤア おいらを。芝居
あめ〳〵見てゐるコリヤ出来さくあんでものべらでのふくばあ
ちやうど。役者の茶屋で女どもが。見物ごをゐて。あん
でも居ぬけがしてゐる。アリヤア役者はらヤア。あきあいらぶ
ちがひ百人あぜさの役者しやア。女どもがむさく
うい強くさいて。移つまこがるうあゆものべ男ゆかるる
てこア ちやうどよ。うヤアどでんきあるんこんごのべ小さい
あうへも役者が来て。芝居をきることがあるゆ孫へやうく

くの来ま〳〵ちがのべどよろ〳〵こうこともあり ちやとば。
そそ三よりうう。下の祭ゆヤア。男の前ら芝居せるまがあり
ゆまこがソレ おんらん。おつ〳〵ごいの日のべだぐん所の会七が。名
場
絵芝居の絵を〳〵あいこがべこうこの前のもう。
ワウ〳〵ワウ〳〵ト。無鬼ちうこうて。はちと九ぜうりおこをこうこう。だきを
鉄砲
こうこいて。どび出こと身あんだ。ちあく ゆうあいこがのべあの
こが
出ちあ〳〵こうあいこ。ざいうこのよこうのめがれの来へあがうて
あうこう。結がかん。麦分 ちく永ぶとせるちんぐんてゐヤ。出ちん

あが葉をうえて。はのようくらいくらいでも。ア二井
ゑ七へ。ほんであてぎこ。おもひふてんでせるもへぶんてきく
まつんでへちうりくさがのくそのくれ屋どめがいこりせるまア。
ちゑ五ぐでもとでくでも。ほんでもあてこ紙まへあくぎる。ゑ
七めへ。がるよまうりくく。僕さりはこ屋さがのくっきア。ちぐりへる
ゆくぐ。ぎしくくそまる伊赤ちんがおるも改まうりくさがのくく
ア二階でくぐとのんできせるの吸壹どもの寝へくくえ
て吸つけ。ちりくさがそのくくりくも屋やどのがゃうくちゑ五ぐど

くくちりめさりはせくさが。ちうくらりぐ最さとよくくはくくくえ
ぎぐんくくるんりそまでもちうくらへくくあくくまてもちうくる
紙者へちりめくちんくくらんゆりりぐまくくくぶありくくへりりへ
年ぐうくあくふ。ちゆ村花くくれくくらへくくのふくぐ
来くくくぐありくうけりりくくまへ。あまくぐ女子の前くくゆ。
まりぐ一向るやりりぐふアくぐまでいい。金くまぐあるゆ。ちんぐ
ちうでくくえせくくえ。名吉屋へ今ぐりう三年目ど。我ゆまで
いうくぐ。大あうで。今くまへちくぐ。僕ちうくのふ来ゆへりりへ

さいはての杜若よ菖蒲こいつものぞかしてもはなれぬ
吉原中大体判であるこらの。
のお名。菖蒲こいつものぞかしてもはなれぬ。
おいらの名は綱引の印。今夜若衆
屋中かるーくも盃。少でもものいで。大ぜん事仕ごもと
はきていくのぞれぐ。同ふこれてうふこ。をとでこぞこ
形ひよりとそして。出けこいつものさトはもやまのやこと
さいつもぶかるぶいとまはこよ。菖蒲のいこ
いろてぐこるのちや金よりてかぐとおろー

小松が中でやこぞろ一イヤちりこあるきやせこ。糸ぜめで
屋ぐいこれ一そんぐこ見る。お見のまを一ぱんのませてくま
さこせ人ヨ。承知く。ソレ駕籠ぐ銭百五十よ渡す。指紋文
で。市兵よりくく。これさ市兵ろ。ここ。三十日ぶ銭百
文ここ。こせる見る。指紋ア。十三文や市兵文。を金
ぶでもやるづこア。がるよさぐるちんぐやアあんぐ。こ銭
糸づでよかこぞトいかごろれひこくこ。ぞここれとよくもこけもしそのこ
名いことこれの名ぶまで。きよかこと。ぞぐこ一コリヤこんぐこ。こよ。
ちんぐ。ぞここいこよつけこ。ぞぐこ一コリヤこんぐこ。こよ。

我百姓の鶯は汚なと我身つよせェ。ふてゝ用
ゐるく稼ぐがなしんとをとめぬうまやァ。ぐるこ。お陣へ行
ぎ用てゆゝで用ゝゝゝもゐるくきやァ。東海道そゐ中
こ次と殺まきをけてあるんさかんぐの人殺者のか陣ゐゐ
ぐ。ごこの高まあるぎゝァ用ゝ高ゐゐゝ。おゐゝを殺者ぐゝお
ゐ用て稼ぐのぐ。コレセそんるいゆしんとをゐなゐ。ゐ用
おゐゝぐごゐ殺者ぐ用ゐゐゝぐぎゝ世人て。あの正物の
ゐゐゐゝ。ま用ぐうまけ出て。ゐ世ぐこぐがゐゐゝだ。

おぐけぎゝ用てくまき用世人ゐいゐ世ておけゐ大気
ゐやゐゝぐよこ用ゐゐァゐゐゐぐゝてくまゐゐ用ゝゐ
ゐゝて。外ゐゐぐくをぐ用ゝてくゐ用ゝどレゐゐぐよこ用
ゐゝァ。ぐ用てゐゝはぎゐト殺ゐゐてくゐゆきゐハとゝぐ世ハ
ゐゐゐゝる。ゐぐ用ゐぐごトゐはゐゐつきこぐごとゝかどゐ殺もゐ用ゐゐ
とゐゐあげゐゐと。殺ゝ手ゐとゐゐてゐいきぐゝをひゐゝゐゐ世ゐゐとゐ
ゐ殺もゐゐやぎゐゐくをきゐハつきこぐごゐてのゐゐゐゐゐゐ世ゐゐゐゐゐ
ゐけてゐ。ゐどゐこのいきゐひゐさをゐのかごゐ殺ゐゐゐゐゐゐかごゐ
ゐゐてゐきゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
殺ゝゝきゐハ殺ゐての殺
ゐげゐゐこゐゐゐゐゐてゐ用ゝゐァゐんぐめよゐ用ゐゐ世ゐ大きゐふんゐ世

下毛宇都宮

桂元舎

をさんぐーて。おきまのぐーぐー孫ちゃの(ちゃん)ちゃ三あの流くいあちの(ん)。
ぐーあもをうまませぬ。あるをうをうさよ。お怪(けが)系がうをうて。お仕合で
おぐーうまと(小八)十二あんるやろうぐーもかんんて。けぐをーて
法まるかの。サア法法さん。出りけやせう　トあるやうん。ちくしは
うせるーもあえんと。
ぬんぐーをうさよ。ちゃくーをうをうんんて。月まぐーまるちゃ。法をーをうるづきちゃうを
をうちよをうさぐーをうの茶代茶代ぐーも。さんぐーをーぐけ。二茶文ちぐーをて。出りけんと
ちゃ。西(にし)へ川(がわ)アー　おぐーをうぐーく　トくもまけぐーも大ぜい。品やくやーして。
かの法をうをうぶられーかぐーをうをと戸
いをうの世てつまーて。法をうのまん(ほう)まん中あもいーをを
ちくーひくをうのもひくをうをうちふぐーぐまんのくもまけ(へ)モレあや
かぐ。今ちこのやろうぐ。ちまんをうちふ防(ぼう)ちくーぐをれをうんぐんて。

おーこー
口ぐ舞ぐいをんて。南壽(ぐーい)も出ちまぬんぐ。(を)ハをーー。ぐまも
ひきをうをうのもちふりんぐんて。せぐをんぐ。コリヤア(これは)ちまん
をうちんあげうぐよ。ぐーぐ。伸(のー)ばるのうんぐ。お待(まち)ーて。(ちまん)
法けてりんでまーす。をんぐせませぐ。よぐーぐーもをんぐ
ゆーーて。をきさんせます。ートよぐれをうをうをちをせぐをんひをうきてゆる。
をもをけ。ゆいさのよ。むふをちまき
ゆ。ぐんぐをうをう。ゆをうあるのをふひをうのまーつきをうけーを。さをぐのゆ法をうーも
きをうをーて。これゆんてまをうをてゆいてゆ大ぐいをうひ。むーゆんぐのをうもまけ(ぐ)
ーて。ゆぐーくーきをうゆまーーて。ゆをるーく　一サアー(を助)く　よをうりのん。あの(ん)流へ法
をんて。りんをん。ををうーー法ぐーもものまぐをを。コレ　おりんさん。酒(さけ)を

ゑい様。さうるア あんざ。だんだんぐ〳〵いるごの考つけう。ソリヤア
むぐこいちやん。まぐろの志よんだんのでもよかつぎ。ぼん出んて
くまきれせくちやアトちぐふ考だう。あこそろるぐいひてゆがる
きこハも。こまこちんぐ。ひくこと。のこ。ちぐふ考ぜんくかくろむやうを。沙ちら
ちどあけきやうゆてこどこちろたくく。のくでーまいくも助ども穴月もすぐと
アイ。おせんハホちうゆーさ。トヨぐこゆうくくして。出そゆうやこるく。くも
ヲツトおやうこうこうが。ぐくく。まんぜこやうこうとうれちあれて
ちうヨ。ちやア。夏の門の雑家ぎんて。ヨけとはけていうれせへ
ちやア。ハニコけを作けうこア。時やうこのゆうコレヒうぬうこ

いけ。ヒ人やうこうぐ。年中乃中と。殺ふうけてあるくおいうこうが。
そんるあるちやるこてでいくくめく。西和とぶれくこれて。
こまこと。志よりてあるかくうる。歩あるなぞでいくもこけ
ぐこのうも。十拾やホ拾へ。馬ホはけてくくゆアるく。扇へ
ヨ人。人とヨんをくるやアが門こう。ぐこれよぐぞくく。引これ
ぴゆーくもちやん。ぐちやんこくこと。ちくくへぶれ。粉くてやきれちやア
トちいくふいきづくこうあげ。ちこちぐこくこうこのちや。盗のてんくもいこのくん
あてふぐこうもきくくあのこうが。ホようこうがけ。このこいこうこ。まん中こかく
ちけイ。コリヤくヨんぐへごぐこ。ありよ。こうこうが。ぐがんよゆぶせう

さくさぐさこと多ト雖も書付ぞ
ぞ〻きとつよく〻モレラハちがて
あるてんちあさへ。ラハちもて百年めざかろぞーうぞぶち
のめーてくまとうハレーア縁まへ拾もぐんて。てアくまうさへ
ます。コリヤおきやくさま。あんくさハせくさのでざぶりまさ
張 十三丁 芸屋のさちーうーうさハちがちんの者ぐんよ。ちまへ
ぞーく 級者ぐーいうとかんこうやーて。あのま合ぐ酒さとさうう
ぎよ。縁ぐうーおこハさまさ。さ。ヨろちーうが級者るりのう
ハふであーうぎ。コリヤヨハふーうもハ似合るいさんざ。ちよくく芸

も。級者う級者でちまハきまこて。あーうぎ。ニア 山元の癖とさん
きさ。ちんるきさちあハうーの級者ぐぞふあうりんざ。あんら
ちんなるハ。洒屋の燈石ハかやーる癖ぐるハハそももく。
そまちるハかちせへ小髪さうぞうさんるる小元ちうハて。髭むさ
くてるハまうーハ眼ハこうかうる。鼻ち飾ぐるで。ぞと
いやア。鼻付の甘茶石ハかやる歯でそのくさうさうもハ張ハ
あんまりいひきぎハ。級者ぐハて。男ぐうもるハあ
ぐ。おハうーぐも。蝶夢とかけうう。ちうろハもぬハてんさがう。

信州
松本
信州
庚戌林堂 知雅

城山
麦の
山の

[illegible]化粧くまんざ沒者でもあるまざらしよ八年の
若ひうけでおめちらのおくにまさこうえ、ちがまざ沒者の
ありざろうへくあらうもさこづちあさなで。盛ぢがるん。
コリヤおひうとも。行者でうがどふなても聖者ないるし
ちんへ癒つき。ろんひきでたんへ沒者。ろんへが同ちがひ
酒でも茶でいけうちやアへあるかへちがたんるよ
いうにせやア。そんでもあるまら。沒者の新中ア清兵
おくんへかりくうの接取せる。仲間うしていけうちやア。お

き命ゝ自そ。そ。ゝてざぐゝせんまゝ。ト云る泥さるを出て。泥
神ゐとうのとうぎさをあゝハたさろうかゝ。ろうもうけるくゝ。ろうもうけるくゝ。ろうもうけるく

あやぢがくもきけどもとまるをあんぢん。姓の狩化ニアラズ
祝へうら。あんまりアラうむ祝へうへ。ちるめへどやア祝へうへ
可リヤ見んぢめふあうこ一まうぐ祝へ。あめちんのいんどもいま。
あまこへ後者ぢ。名古屋て鉄砲まこ。このやうな者出ちへ抱うき
このちりんのく。きやだうこうこりんアリ。まめがいうぢる者ぬ
ぢるーとちせきぢーこ一今者嬢とつくもまだ出し祝へ
鉄歩出ーてやる世一鉄歩へおしん生歩ふうう一平生
ぎへのうり必ぶ鉄歩ぎく一法まう祝へ呂うれちるようみる

ト きるーふ金紗ちゃ 紙まつて茶代おもきてん也へいちれを
のぐく きるくくこのとうをくうち出ゆくくて

何事も 堪忍 まさしく 引 ゑ

鉄歩 ぶ うう是 うゑ 歩 ゑ

かくよみて大ふひとかーつ 祝平の御城ト

ふいうりれをを

いくよ代とうくよ 技 所も

きづる 者盤の 祝平の 謡

きの御謀ヤいうて 御書の 所無よく 高氣 彩色

のき
ちと
ちゃ
ちゃ
ちゃ

あるざとへむら井の喧嘩はあるとのかみその役者
こりくるよりちのかうへ来さざるアトいひつ張りそしく
役者ぞそこふざく〳〵どこふのへそれさ。あるとのうちふ
体んでゐるひうのくぶのく藤ヲあく〳〵はやくへぶるくるとあん
な。役者ぶどこふあるざどへ張きいれこるる移へサア通出そう。
アイ　おせるふちゆうと　トあるもんぞてそうふりゆうあ
そふるそうそう髪の男張　あるもうそうもぎこうるこ近生の医者
ぎこまてあるとぶり　モしく　ちまるうそうぜんかうちるうちへぶるなは
いりやまと移へ医者ぜんかうち入。むうへうきあるうて。右まの所を

ぶどこまでもいうけせるぶ名へ。そふ者ふとと幸御ふてござうア。
者ぶのへぶるうく成合秩田くらへ。ちうくへ武生もいうけせるく。
ちまるうく沈田大所ぶどう。ぶるも名ふれるてござうア。今へ
大分ふくぶ此ふをいくのへで。馬もかるもぶぶ〳〵ア。それるのへ
うを栗尾の親者。松尾芭蕉。全体の不動ちぶぶうへ結抜る
者へ命もあるちんぶんで此ふをいうけせるぶよかうぶも御
道くあんちゆぶ者んでぶぶくうアそんるムうそのあくへいうけく
ふんやせうう医者ちをの秩田のかんぶぶ。松尾へ男もんふきあく

平潟村
地茶の
去こと
ふる澤
井戸と
いふ
地茶の
秋田茂衰
ふる茶
清水の人
ふる
井とかりて
地茶
沼さろ
を
安堂と

今ゆうけぶんで。国志よりまいりませぐ。そうして要尾へも。
いく果がるんぶんで。コリヤアあんはまぐる。至らく安本
内をこのまれ。せうよりうア。コヤフふくれはなで。まぐる世人
まゝ一ぱいらあうぐで。そんなりゝ虫一匹もあるやせう
トこの医者どのゝあゝふつきこのゆけバ歩後のたなのまをひぐりのうゝ
ゝまちをまるれて世をよかりうあるかゝとおるるとて
みぐまの雲のたゝまはるうおよ
さゝゝさもりて　ちるる　堀山
そまよりう森川い巻つゝいと魅村の搗るさゝかりて

然もうのさゝれさをかゝゝみさゝゝ
照ゝうゝゝゝん　巻の月の物
かゝゝ。茂れ新田よいうう。宿さげまる。ゝぐゝき茶やの
あるゝ家の医ゝゝゝゝてきちんあひでかりて居ゝぐみ
ぐがゝりても。かせちんあやアきゝりを稲るコレくだきる。
さのゝゝる。釜でも考んぜさゝせ。ゝゝゝの内ハ変ゝる。
ちくゝ体んでいぐやうゝせ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝ要尾へ行ゝ
いきませぐゝいうさゝいゝぐゝゝぐやせう。モ。はめんちゝ

コリヤ医者さまの門が茶屋ぐらいおりん。なんでうめく
力のないやせぬ〻医まさまをるるさいでていやうせ
手ふさいつぺんらいていきやせう。ゆがあるやをへそうぬと
菓をろうでおまさまア医の長屋へできそうなりて。や
ろうとてぞぶんであるぎがそんぐんやア。腹のちんぢう焚
てあるさのぶんて。ケかうびてよかうぎるア陳ちんぐないうう
二せんちやくうのきまとト間おぶんるべのをとえつけ。ちるんど
コリヤア針のやうる腹ぶ。おうまさの茶へやりそふやうめくく

陳ちそふ。ろうそくそくんて扱ぶぐ。モシだあさん。腹も茶も
かてそうんる。おいらも茶をとりふいりぬん。ちうだあさんの
あだるなぐをちうちうて。ちくうちうきんへあまんの平のるう久
がうる。ひうちあとくまうくうう陳きうぶうとうふ。それで
さの茶がまづくるいうと医へまづんこてアちううぎ。耳くさこの
烟ら。焼場のそだぶんて。さあくうよ。その焼場の庚そうけ
ありまごア医へいふるどのうりがちうくで扱へ。コリヤ絵ぐうるく
るうぐ。さんてちうへトせどぐちへゆきくぐやぐてれぐうくさうちう。
まうさるうるびさゆうとをうくもてるせうけうく

隠ちゃんざく　隠コリヤ　輝がとうの形人と様と一緒をさやーふ
うけさせまをとうせやアがりさかうう産婆の掘さえはかびと
隠めかーてあつとを考とうをへつけて来とくく医者とがく
よかアいきませざとう隠サクく御仕とーやせうト出のとひ
医者とつまざちいがるとは毒くのゆやどようひぶうのうへ地をとどうゆく
ずふやうてうの白まうの山ゆまーかう一の本戸ーうをもぎて坂ちちと
のがうむまうのちとうよはるる医者ーもしさぶうゆる山の無用のた
はまはまきちーゆうだーいふあり
とちんちゃどんで最後めこ
るるくさの搾がまとうまるん
たーとつとまとうて。まのるとさんでおぶーアのへ隠ん
ちうとまを八ちんぞへ八はたーをうまるゆ懺悔をして渡る
がつぜ代イヤおいとうおめへこそ。ソレくんあふ。どこのう
内へおぞがらいとこれ。ちんどのかるぶるを温んで。脊
中へうはさいつが。隠ようとおるるとうて。おりことて。グワン。ハ
おうとうとおやアはなう隠イヤ人のこをとうふまめへが。眼の前ま
さりきのうぞ。まのお医者ことのうちでかーてあるさ隠を
隠アこレくちんざとうとうみそまとうといひぜーゆう。おめへも二せん人

[illegible]とりて。きぜんがうたちまち[illegible]てまるこがやアゆくうち[illegible]
でのべ[illegible]あるこの所でき[illegible]
古のうえん茶をぶあるうらまて。ちまるかんうこ一文でも拔
とあるとしきうんぶんて今をの一ぜんぶうよりてうまさん
[illegible]ちがうえん白樣茶ををきるかのうインまかくさん
せるし。此茶屋のうしがこうぬくかうぞ[illegible]めんぞうるソレ
一ぜんぶう。十二文あげやせう。一ぜんぶうしたがのあをうの
[illegible]ゆゝ[illegible]あうんこうちゝ山ゝしをとうこまよ。お医去

さうひゝう。おぜうちのあをだゝうとこううさ
つる孫[illegible]茶をうをいふこふぶ。沙法へなんぶ。ゝ
医者ゝけあるが。ゝの茶のんざふふさきふくが
うゝもるんで。その罪ぶあゝぞあうがで。アあの指へ。
あゝぶうまどうくゝなんで。ゝうあうのうへうんうう
かのゝとあてぶるどうう。解ゝへふもゝ行くく
つのんぶ孫[illegible]うでゝ[illegible]ゝをとそ。ゝの平尾のおうま
ゝ公安ゝいのうさうぶ。今よめくゝ。ゝゝおうくゝ医

栗尾山
男奈松

自立庵
天久

ふるのいしゐのそうそう福や山ちゝ年
そうそうわしこのの
松の　あゝしみ

去さる人。中の頃。ふるさとよりこの。ア。お寺でら。人ゞ。きる。福べ
狩ぜ。よりぞ。その。狩よ。ふるゝよ。病人を。よく。きる
医者。きゝ。ぞう。欲は。古の。そばぶよ。かへ。ゆて。おてゝ。
祈んどろる。くいひ。ちきろへ。ひを。穀を。医者。きゝ。ぶけ
おてゝのこめ。中。福の。狩。ゝ。ゆ。おめ。人の。ぞ。ぶ。医。さゆう
ゞも。く。そふ。ぶて。ゞ。自慢。きる。ぶ。ア。ふ。ゞ。どこの
寺。ぞ。ゝ。いひて。も。やまく。ゝ。かちゆ。て。ゝ。きゝ。まゝ。
きゝ。ゝ。おく。ゝ。ん。ぶ。ア。ぶ。ゝ。ゝ。ふ。ん。ハ。の。人。ゞ。ゝ。ト。この。きゝ。ゝ。の。きゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]
いくるあるまとるるを見てよりて

此[illegible]　[illegible]もゆるまぶ[illegible]の紙に
[illegible]　[illegible]しらの　松や　[illegible]年

[illegible]
[illegible]　續猿蓑八編　上末終